

# ふじみサラダボール子育て情報



「遊びは科学」  
令和6年9月18日号  
板橋富士見幼稚園



「もっとやりたい」を大切に

幼児期の教育は、遊びから生活への広がりが必要だと言われています。

今日は子どもの遊びと思考についてお話ししたいと思います。

まず、子どもにはもともと気質という能力があります。それぞれの子によって、興味関心も様々です。例えば公園などで、他の子どもと砂場で遊んでいると「お友達と一緒に遊ぼうね」と言いがちですが、そのような声を掛けても、黙々と一人遊びに没頭しているといった経験はありませんか。もしかするとその瞬間は、子どもが思い描く気持ちと、親が思い描く気持ちとにズレがあるのかもしれない。

子どもが夢中になって遊んでいる時は、ぜひ子どもの見ている視線の先を見てみてください。そこに、その子の思いの答えが見えてきます。そして、じっと側で見守ってあげてください。見ている途中で、つい「こうしたほうがすぐできるのに」と口を出したり、スムーズにいくよう手を貸したりしたくなることがあるかと思います。でも、そこはぐっと我慢。とにかく子どものする行為をじっと見ていてください。その姿はまるで「科学者」が実験をしている姿のように見えてくるはずです。

専門的には、このような姿を「没頭」と言います。没頭しているとき、頭の中では様々な思考をめぐらせているのです。この時に大切なのが、知的好奇心といわれるものです。好奇心が刺激されることで、探究心が芽生え、やがて探究力が育っていき、学校の教えにつながっていきます。

遊びは、子どもにとって大切な「お仕事」でもあり、生きて生活していく術を学ぶ力の源泉です。そこには想像性・思考力・判断力・自発力・探究心・持続力・創造力などなど、様々な生きる力【科学する力】が潜んでいます。この潜んでいる力で、自ら学ぼうと試行錯誤しながらトライし遊んでいくことが、とても重要となります。

遊びは、科学であり、時に文学でもありません。ぜひ、教えるのではなく、じっくりと考えさせてあげてほしいものです。



【中秋の名月】9月17日は中秋の名月。

空に浮かぶお月様に思いを馳せてお団子やお手紙をお供えしました。